

「主体的・対話的で深い」教師の学びを目指して

～ ごあいさつ ～ 松本市教育研修センター長 大久保和彦

令和5年4月、新たに策定された「松本市教職員研修計画」に基づく研修がスタートしました。

…「柔軟に学び続ける」ことの大切さを…感じた。私も日々職場で先輩方を見ていると本を読んでいる方が多くなり、自分の考えをアップデートされている方が多いと感じている。大人になってくると学ぶ機会は本当に少なくなってくるのでまずは本を読み先人の知恵を学んでいきたい。

(「まつもと講師塾」参加の先生)

…教務主任という立場となり、目の前の仕事をこなしていくことに対して精一杯になってしまっている自分もいること、「例年に倣って」進めようとしている自分もいることにも気づいた。…立ち止まること、問い直し続けること、手間と時間をかけて生徒の成長のために考え続けていく必要性を再認識した。…生徒の成長・学びの充実のために同僚の先生方の考え方を共有しながらよりよい学びのあり方を考え続け、生徒の今とこれからのに向けた取り組みを進めたい。(「新任教務主任研修」参加の先生)

上記で紹介させていただいたのは、4月に行われた研修後にリフレクション・シートに記された言葉です。新任の講師の先生、新たに教務主任を務められる先生が、立場や経験の違いはあるものの、それぞれ教師として、学び続けることの大切さへの気づきをつづっておられます。



昨年一年間、先生方の学びの場面に多く立ち会わせていただきました。そこで得たのは「先生方は、皆、真摯な学び手である」という実感でした。講師の先生の話に熱心に耳を傾け、グループ協議では明るい表情で活発な対話を交わされる先生方の姿が、どの研修においてもあふれていました。「学びの成果を学校で分かち合い、実践しています」といううれしい報告もいただきました。さらに、学校現場には、学校を子どもが「主人公」として、楽しく学び、躍動できる場にするために、専門性を絶えず磨かれている先生方が多くいらっしゃいます。

このように、自ら学びに向かう先生方の存在こそが「学都松本のシンカ」の原動力であり、「子どもが主人公」を実現する宝物と考えます。

折しも、感染症の状況は落ち着きつつあるものの、急激な技術革新や世界秩序の変動等により、社会状況が加速的に変化する時代を迎えています。様々なもの・ことの本質を問い、旧来のよさを価値づけつつ、よりよいあり方に向けて変化を恐れずに挑戦を重ねていく力とマインドセットの育成が求められています。教職員一人一人が、従来の指導観・授業観、教師像、学校像への「とらわれ」を棄て、子どもたちの学びの質を高めていくことが喫緊の課題となっています。そのためには、教師自身が子どもと相似形で「主体的、対話的に深く学ぶ」ことが何より大切と考えます。

松本市教育研修センターでは、今年度も、先生方の「学びへの期待」に応え、さらに充実した学びの経験を積み上げていただくべく、私たち自身も主体的な学び手として、先生方と対話を重ねながら研修を作り上げてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくご挨拶申し上げます。

「松本市教職員研修計画」および諸文書フォームのダウンロードはこちらから



令和5年度の松本市の教職員研修がスタートしました！

～ 「子どもが主人公」多様性・創造性・主体性を育むために ～

4月から松本市教育研修センター主催の教職員研修がスタートしました。4月には指定・希望研修を含め以下の10講座が実施され、237名もの先生方が参加され、熱心に研修に励んでおられました。

- | | | |
|-------------------------------|-------------------|-----------------|
| 4/5 市費教員新規採用者合同研修会 | 4/7 松本市新任管理職研修 | |
| 4/13 松本市新任転任教職員研修・特別支援教育支援員研修 | 4/17 まつもと講師塾 | |
| 4/20 新任教務主任研修 | 4/21 タブレット端末活用研修Ⅰ | 4/24 自立支援教員研修会Ⅰ |
| 4/25 まつもと学研修1 | 4/27 理科授業づくり研修 | |

その中から、二つの講座の様子についてお知らせいたします。

松本市新任転任教職員研修（4月13日 あがたの森講堂）

初めて松本に赴任した、数年ぶりに松本に戻ってきた教職員を対象に実施し、143名の先生方が参加され、「松本の教育」について知見を深め、決意を新たにされました。主な内容は以下の通りです。

- 1 教育長講話「子どもが主人公 学都松本のシンカ」
- 2 教育監講話
「ようこそ松本へ！松本の教育で大事にすることは？」
- 3 教育研修センター長「松本市の教職員研修」
- 4 ICT担当課長補佐「松本市の教育運営システムについて」



教育長講話

【研修リフレクションシートより】

- ◆松本市教職員としての自覚と責任を学ばせてもらいました。特に、学都松本といわれるわけを知ることができ、その中でお話にあった正解のない問いをあきらめず探求していく子どもに育てていく。そのために子どもたち一人一人を温かく見守り、私自身が研鑽を積まなければいけないと実感しました。
- ◆…今年の春、念願の大好きな松本市の学校へ赴任することになりました。本日の研修を通して、松本市の温かい教育理念のもと、子どもたちと温かな毎日を過ごしていきたいと、改めて決意することができました。ありがとうございました。
- ◆4年間松本市を離れていましたが、4年の間に教育研修センターが設置されて、年間を通して様々な研修が行われるようになっていたことが、松本市の一つのシンカだと感じました。今後、自分自身で何がシンカできるのか考えていきたいと思えます。

新任教務主任研修（4月20日 教育文化センター）

初めて教務主任になった先生方（新任ではない教務主任も参加OK）が教務主任の心得や職務内容を学んだり、情報交換をしたり、業務の見通しをもちつつ、相談できる「仲間づくり」の機会となる研修を企画したところ、23名の先生方にご参加いただきました。

- 1 教育監講話「新任教務主任の不安解消！オリエンテーション」
- 2 信州大学荒井英治郎准教授「教務主任に期待される役割ー教務主任は何をすべきではないのかー」
- 3 先輩教務主任の話と情報交換（グループ協議）

先輩教務主任 島内小学校 田上達人教諭 旭町中学校 百瀬仁晶教諭

グループ協議では、日頃の学校運営や教務主任としての役割などについて戸惑ったり困ったりしたことなどや学校の様子・所感を、時間を忘れ語り合っている教務主任の先生方の姿が印象的でした。

